

まちづくり大学 実践交流会

「持続可能なコミュニティの形成に向けて」 ～学区の取組紹介と意見交流会～

シンポジウムの流れ

1 事例発表

光学区事例発表

「光学区町内会連合会&まちづくり推進委員会のデジタル化に向けた取組み」

2 意見交流会・グループワーク

<テーマ>

- ・デジタル化・情報発信について
- ・課題解決のための話し合いについて
- ・組織のあり方について 他

9月30日（土）まちづくり大学実践交流会を開催しました。



1 事例発表

(1) 光学区事例発表

「光学区町内会連合会&まちづくり推進委員会の
デジタル化に向けた取組み」

① 光学区の現状

② 2020年度まちづくりへの取組み

- ・持続可能なまちづくり活動として「光学区まちづくり懇談会」を実施
地域の課題、地域の努力や工夫の共有等を目的に全3回の懇談会と報告会を実施。

③ 2021年度まちづくりへの取組み

- ・コロナ禍を鑑み、また前年度のまちづくり懇談会の意見を反映し活動計画を策定
町内会長間の連絡用にグループLINE導入、デジタル部会を結成し、学区HPの立上げ
や公式LINE及びweb会議の導入試行等、学区デジタル化の取組み。
行政・学区内の活動の見直し・活性化を図るため、これってどうなん？相談室を開催。

④ 2022年度まちづくりへの取組み

・デジタル化についての取組み

学区公式LINEの本格開始、前年度町内会連合会で試行を開始したweb会議を学区内の各民主団体に拡大。

⑤ 今後のデジタル化について

LINE・Zoomは契約済、今後は地域のデジタル関係の教育・対応や後進の育成、依頼事項やまちづくり関係分野のデジタル化について市との連携、働きかけを行う。

⑥ 最後に

・光学区がデジタル化を急速に推進できた要因

各町内会や民主団体から次世代を担っていただきたい方を集め、「まちづくり懇談会」を開催することで問題点を共有し、デジタル化が望まれていることを知ることができた。学区内にデジタルに明るい人材がおり、その方々が協力的だったことでデジタル部会を結成することができた。

コロナ禍でそれまでの形での事業継続が難しくなったことで、固定概念の払拭・効率化の追求を考えることができ、それがデジタル化につながった。

2 意見交流会・グループワーク

(1) デジタル化・情報発信について

- ・各民主団体等はデジタルを活用して情報交換を行っているが、各組織がつながっていない。
- ・デジタル化に伴って業務量が増えるのではないかと。先に合意の形成が必要では？
→新たなことをするので新たな業務が生じるが、嫌な増え方ではない。業務の増え方と効果を比較して考える。(質疑応答で回答)
- ・若年層の加入にはデジタル化が必要だと考える。一定の距離感のあるつながりやオンライン化の普及等が必要。
- ・デジタル化によって会議などはかえって時間がかかるのではないかと懸念。
- ・まず何から始めればよいのか。機器等の設備はどうしたらよいのか。
- ・現在情報発信はアナログのみで、各戸配布はしているが情報が届いているか不明。
- ・デジタルに詳しい人が少なく、一部の人に負担がかかってしまう。

(2) 課題解決のための話し合いについて、組織のあり方について 他

- ・次の代を担う若い世代で構成されることが望ましいが、若い人との関わりが少ないため働きかけが難しく、高齢者が役を担わざるを得ない状態にある。
- ・組織の見直しをしているところも多いが、見直し後の人材をどうしたらいいのか。
- ・デジタル化についても、特定の人だけが出来るため、継続のためには人材の発掘が必要。
- ・人材を発掘するだけでなく、どこにどんなことができる人が居るのか確認し、人材をプールしておく必要があるのではないか。
- ・月に一度定例で集まって話し合いを実施しており、事業の方向性が明確になりつつある。

3 参加者の感想（一部抜粋）

- ・色々な学区の取組みが分かり参考になった。
- ・情報の共有、発信、管理の重要性を感じた。
- ・デジタルに詳しい人が出来るだけではだめで、情報を共有しながら少しずつ進めることが大切なのだと思います。
- ・HPをフォーマット化し、各学区が取り組みやすいようにしてほしい。



【問合せ先】

中部地域振興課

電話：084-932-7265

FAX：084-928-8609

メールアドレス：tyubu-chiikishinkou@city.fukuyama.hiroshima.jp